法八

竹ばり物語

下

内閣文庫

ふけうり物語下

中納言いそのかみまさつねの卿ときに侍りけるくるめけるをくひ
ものなどのことをのみもとに侍りけるをとりまきてうめの花より
さきそめけるとのたまふをうけたまはりてのたまふやうこれの
あるんとすーあるべきにてのたまふやうこれのの
ものこやしに貝をとらんまきてありとのたまふ
をけることをこそいへくやーに侍りけるくるめ侍りけることを
ろーてかんるるをはるになれるものをうりさく
ーるうむかるんいうてうりけるんとすーー
人ふるかんをもう物あるとーー又人のーー
ものいひけるのいひしをのむひはくの

内閣文庫

あれこそにはたづみくくひ給ふうれよ
まゝあ〜んちをのこゝをとゝひくくあわて、あく〜紙
ゆひあけくう〜いかせんまこゝらはたこゝ紙
ゑうあはち〜むやあ物こそ〜〜めさまつめせ
ゝ中納云よろこひ紙ひて物〜ゝ事まも
ゑうれをけともえん主〜さるまりけう有ゝゝ
〜りとのゝひてまあ形るものことを世人ゝり
はうり〜てあ〜ひよはけをへらまてり慶よ
ゑ彼ひまなく給ひ紙せくこゝやをものひらゝ給
うゝをむうをせあ人はをくゝめをひとれ何まさ
乃須り居〜給よおちてをにものわこんかゝ紙

よ〜のゝ〜紙ゝ人れい世ゝひてゝ〜ゝをゑさ
とれ物〜ゝ〜ふよはは給ゝさの主人ゝゝ〜ゝ
こゝ物あれ〜ゝ〜ふゝゝをを見ゝ〜ん主とれ物〜め
さはなゝうゝゝ〜ん〜て御およまゝ〜れを
中納云彩〜ひとあゝをくむゝひ紙ゝ〜ゝは
ますゝゝ〜ゝあのゝゝ〜めこゝゝを見ハあ
をなゝうゝて〜〜紙ゝのよなりさてハえゝ〜せ
給ゝ〜あれなひよおゝくゝ〜、世人上ゝて
給れゝあきてゝゝ物ゝゝをを是せる勢なゝふ
ゑゝゝゝゝゝさひ物ゝ〜ひをこ須ゝく人ゝんゝゝり
うゝきてゝまめなゝゝん人一人をあ〜ゝにのせゝ人

て作るとうまへくるのようまんるり作るを
作りあげさせてかとこやをうひとをとく移ひ
るこよかるへきとるり中渡云のくまかやうい
とよ記事ありとてあるひをこれ人人か
ゐりまうてきぬ中渡云くく作也よのくまかと
く作とくくめきいうなる時よりる塩うむと志
ほてくをはあく魚ことのくまかくくつ也ゃ柏
作とくくめみうまんとをる時を尾を作けて
七度めくりてをんうんおとひめる梅七度めく
らんおりひきあけてその形りこやすうひきこ
塩七ものへとゃ中渡云よろこひ塩て百の人

まもきくせ折りくくみをうに塩うきゆのまして
をものこをの中よ海ゆまてうるをひるにあらく
とくしめ塩よくくく作也うくゃ中をいとのくくよ
ろこひてのくまかふあくよ塩うを海く人りを
をきよ塩うひをうるのるの中れうまりさとの
塩ひて作そをきそうけのあ作さくにまきり
ふ作うきよまくてことの塩よくく作うくくり川
日蕾めを三八はつくきよ松ちりてうんあよ塩つ
をくくく塩をつくをまりるをつまろゃやうおう
けてめくを海あくこよ人をのかせて作りあけき
をくつをくくめ乃すふをを塩へをせてきくる

よ拍もあ〜とゝよ中納言あ〜くはくきこ
ゆ紀道とゝろくゝろくふれいりあ〜えんよと
て我乃ほうてはくゝもんとの給ひてこゝのわて
はくゝれ上つまくゝうくひあ〜ゝよはくゝ〜めお
とさけていくるこゝくおよあゝせくゝ多とさくけ
てはくゝまゝふよゝまよひ〜め伊拍さゝ歌河よ歌
拍よ紀りさり今ハおろ〜てよはゝれ志ゝてゝり
とこの給ひてあ川まりてとくはろさんとゝこはか
とひさゝ〜てつまゝゆ歌刈まやゝ海乃れ海
のよよろけさ海よおち給へり人ゝあさまゝ
りてよわくかゝ〜ゝまゝ〜ゝ〜ゝまゝて

申給へ〜ゝ人ゝ水をまくひ入まゝかゝ〜ゝて
いさおゝ〜ゝ多よ又ゝなゝへ乃よゝまりまゝり是ゝ
ゝてさけおろ！まゝかゝらゝゝて御こゝちを
いかゝ、おほゝさゝ〜ゝ光とゝゝいさゝ下ゝまて物ハ
お覚ゆゝまとゝゝ〜ゝんうとかゝまぬはゝまとこやゝを
貝をゝとゝゆゝりゝもゝれゝをうゝまゝ〜くゝ海ゆゝる道
まゝ川ゝそくゝゝて志、のゝいゝかゝんと給ゝ〜を
ゝけて給ゝをひろけ給へゝるよ給ゝくゝめのゝよ
ゝまゝをゝゝるゝくゝそゝとゝまゝきゝりゝゝ〜ゝ〜なゝりゝゝりそ
ゝゝ紙ゝん給ひてゝゝるゝ紀ゝゝのゝまゝやゝとゝのゝまゝひ
けゝるゝりそ思ふよゝゝ事ゝとはかゝゝなゝ〜ゝ光

云けるかひなきもあるべしとかんがへられるよりほんち
もとり初くるひつのあるさまに入らまゐかゝ
もあるべきは勝れたるよりも中納言をいくいけ
るうさまして屋むこと成人りきうせーと志
折ひろれとうまをやまひていとよつくなり
給ふよりのひをえとらしたりよけるまりを
人乃きくまらりん事と日よりへくおりひあひ
きれしくよやこをめるより・色人きくこつう
ーー見こしあるかりけるまこ事とかくなひめ
ゆてこうひよ屋るこ
年成屋て波をよりぬをこ乃にたん

まりのひなりとくくを波ーとり
とあるをとみくさ次いとらに紀ゆよりーら
をこけて人よりこ紙もせくくるーをくちよ
らくーてくさあ
かひをくありける物をわひこて
をあるいのちをくひやをせめ
と書をつくさこ入給ひぬ見をやてかくあひん
かあんまとあ見ーこりうまこりあんねらまー
き事ーとはり記ありとは云けるあかくひめ
かくも乃世よ波をとめてこきよりをんりやくきこ
ーめーて内給ありとこのかきこよの給ありく

乃人の男をいろうよすてあいさ海うく屋
ひめをいらはうち氏女さとまうてゆくまい
きとのゆふあさこゆくまうれうふけとりのも
よ畏て走やうじいまてあへり女よ内侍の給ひ
仕るよかくやひめ乃こちいうよおとこ仕うり能
乃ふくまいりへきうーの給を世仕るゆちん乗り
仕るといへを仕らふかるをーー給らんといひてへ
ぬくくやひめよをやり氏御使よきいめんー給
ゆをといへをくくやひめまきくちゆをあらまく
くくりの乃んゆゆをきといへいうてものーまふり給
仕門乃御使をハいうてりを給くりせんといへハ

くくや部乃のまふ新やう仕りのめーてのく
まのうんりーこーけおりんけとゆひくはくまよ
乃ん変へくをあらひむめ仕るを乃ゆをまてを
いとふをうーけるのよをろうのなるゆをうよいひ
をれをいのまにもえせめをかいーのりふん
ゆり出くにおーくこのきなれものいこりく
給り者よてふひめんすまーきとりるへーり
ゆーふひ乃ゆりてまいまきを給ことをこくる物をんん
をしてハりてりゆ海りをふんん國主乃仰事を
まうを世よ給給りんん人乃ゆをまりくゆりゆん
やいをきぬことなすー給ひそとをとをいちーく

云はせ給ハ是をきくて海ゝくかくやひめ申給く
もあらぬ国王乃仰ゝ
給てらりゝゝ云はせ給仰ゝ海りとまてさゆをそうし
海ゝきこゝめ ておほく氏人こゝろ
きりとの海ひくやこゝはけ給と申おりゝお
りゝ海ゝくこれ女乃こゝろりまやまろゝとれ
おりて仰ゝ海ゝ物て仰るゝく屋ひゑんを通
ゝかゝ海ゝちゝとこゝてめゝて仰つひゝ
ゝゝとかひるくゝ氏物よりかゝるひゝく
ゝゝやゝ海ゝハ氏ゝこゝ仰らるゝおこゝ畏を
仰るゝ やうはめ乃まゝこゝハゝゝく文仕

仕りまゝ所へくゝもあゝ氏仰とてまゝひ
仰さりを氏てお海せ給ゝんとゝゝ氏ゝ氏とゝ
て仰ゝ海ゝ氏ゝ仰ゝ氏のお海ゝをてゝん物
をいりまゝ物さゝむは女ゝ氏りゝ海も
のゝゝはお氏るゝよりゝ物りとゝとりたゝ世さ
羅ん氏れゝ氏ゝこひくゝ海てくやひめゝ
かゝゝ海ゝかくゝ海ゝ門乃仰ゝ海ゝとゝ
ゝ仰りまゝ所ゝまゝぬとゝへゝくやひめこ
ゝへくゝ云をゝゝ仰やゝ乃ゝやゝ海ゝへ仕ゝまゝ
仕ゝゝ！と物ゝ海ゝを志井てつゝまゝゝせゝま
りゝきゝえゝ物ゝん氏ゝ仕ゝゝゝゝり仕て志

ぬしうり也打き敵いゝ姫ゝ様ゝ志ゝあひそゝ
ゝるもゝもゝうゝをゝゝんをまゝそは何よりせんゝはゝ
ゝたゝをとゝり交ゝたゝりゝへゝをゝ治ハさゝゝん死ゝ行ゝゝゝさ
ゝゝゝうやゝゝゝゝゝきゝといゝふゝなゝ殺ゝゝゝゝゝとゝりゝゝを作ゝゝゝま
ゝゝゝゝ殺ゝてゝゝゝゝゝゝゝやゝあゝゝゝと見ゝたゝまゝへゝあゝゝゝゝゝゝゝ

郭よりゆくゆくは結ぶよえみちてけうらてぬさ
ゑへうを見るうんとおりてゆけうくへ独とうう
ゐをみておりてをゆうきてうくへとこんーめうく法
らんーー法まはうくひちくめてそくえうくさせ
のひくゆうきーーとはとてぬうくおりーまさんと
きうるよかくゐひめきうくへうくそうををめうゐハ
世國より生て侍うハこうはうひ法えめいとぬて
れりまり難くや侍ねうんとううを法門なとこの
法あうむうをぬておりーまさんして法こうを
よせゆうよびーくやひめきとうけは成ぬえう
なくくちおりーとおりてけようく人はあう

きりうるをとおりーて法ーうん法をうはぬてい
うーをを法おうちとゆをゆひのうを」をんて
うふゆりなんと侍うを法をかくやひめををこの
かうちよ歌ぬ法門行めてうくおりーめ法うく
事ーせ記をあかうーかくうん世法うをつこ尾法
よううひゆうさて仕をうる百くうん人くあう
ーいうめーうつううをまうを法うんかとうをやひめ
をこうく法うくゆ法りんうをとあうをにおりくあや
ーけをとおーねとうくうくうう心ちーてうんう
法せゆひうを法法ーよなて換ようくや姫ま
ゆうを法ウうん法をうを法うくゐををして

うしろそとうるかくやひめ

ひめ

むくつけきみちの奉ハ色なる身の
なるはおもはれうとくなるとしつん
あれとはいかにしていかく物りけんそう
まるく物はさはは心をよもらぬるへくもお
ほさまきさりけきとはちりとて衆とはしのへき
よあくひとうくせるひぬはひはうまろ
人とうのよはくやひめかりくはまる人へ
くくふあくさりけるまこと人りハけくらりり
とありけう人のうれよおり合まれとくもも

あくすかくや姫のこはかりてくひとり
色しのよりるくはかくくるを物りはりを
うくくや姫乃はもとるくはをうるてかるる
させはよはかりはりをとにはくくはきこしか
もしのひて面白くくはは衆はよ付ても物をとこと
てはうりはくやうはよて物んとうりはりなく
さはんのよ程はこの奉とうりるて巻の初はりかく
や姫月乃はもしろくはは出るをはくくはもも
物思ひよ物物はるくはは乃月の月はは物をいむるを
せいしけきこたうるとは人まふを月をはんてハ
いみくくるはのよ七月十五日の月は出るて

せちよ拾思へはなくさめてきめちかくたちのそはく人
人行末のおもかれよはけしく云かくやひめきいも
月をあはれうり給へたはしはとなりてはそうす
ましはなくさめ思いとしく秋風なけく事を
思しよりくんなしせ給へとの一筋きくてか
くやひめよ云拾ぬんてう心ちをれたかくものを
を思ひさう拾ぬて月をんのそうまいこと無に
とを云かを変ひめんまはせそうん心はそく表り
給うをてう拾をうをすきさ作夕へこさと云かく変
初めのを歌よいうりてんまは拾思へかそ
きなり是をんそくみ仏作の思ひのそをおはを

殺ん事作をとをそをといへも思上事しまの拾
をんんかそくおはゆるをいをもおをれ月かん
行をを是をんをへをも拾おををそうきいらをと
いへをいうて月ををそをもあうんとて拾月おれ
も出若作をうけき思へ夕やこは拾思へぬ
そう部廻月の程よ成ぬ思へる紙拾くをを
きを紀なを紀是を作をすのをもる紙拾おかを
事のをへをとをを変をを親をををめくを作ををも
ををを八月十又日いをりの月よ出若てうくや
初をんいををくをる紀のを人見を今ハ作くをを給
いををなをきのを是をんく親をを作をそをとをひを

ちくかをあはれがりなくこゑをきゝてと思ひ
おもひて今ををしがりなくこゑのそとは
おなりぬる歌をそのゝ方をきけば國乃人をあつめ
ほりの船共人をさしをあんじて乃ちきりをあ
けるよりあんじ世界はまうてきりける
今をかぎりとなへ来るに成れば月乃十五日は
はるゝと成國よりむかへ人くまうてこんをさう
に成めんけをとゞめおりなけうんのかるゝきる
とゞ差より思ひあけきなるかりとゝひくいを
しくなくとをきれこはまてゝ事とのあ人

そ竹の中よりかぐやけきこえわゝしりとなるよ
の大さ竹とおなせをとりをけるちなるよ
て面ゝるひなりゝよりわらこ成何人のむかへ人や
えんまさにゆかさんやとをく我こそをかめと
てをれのゝ歌をいとゝ人かゝけ地の御ひめ
云月此乃人まて又母あをかゝ所をるとてう
のゝ出よりまてあゝかをかをゝ國よりそをまよ
をこの年をへるをあんをけるはゝ乃又母流
事も差ゝにきくゝはかをゝ久変わをひきゝ
てなゝひなをまりいゝんゝ地も世をこうれ
しくのこあるされとをのゝんをゝにをわゝんと

正房と心をくまろとをよいこちうく作うて
新くにも年はるゝひくさをとれなん津をん
こくまとあてやうたうてうり作るこをとこ
なゝひくこひ〜かんるのゝくゆ水のま
きん後〜心よりけうりけまこの事を活
門きこうめて行ゑろあるよ作ったせのゝ人
作はよ行ゑ出あひてるく事作あ〜はるとる
けくよ彩けとをろくあ〜もかくまり目をたく
きようれおされと年ハ文十こうりなるけき
こと拾田ひよはかゝとはよなん者よありにて
ゆとみ作ってひお頂せるゆとてをされよ云

作とひくうく拾田ゝ嫁を深ゝよくと作ます
行ゑうくゝ作十文首よあり月乃於ゝ利
かを屋姫れひろへよまきてくれうたくとハ
せあゝ作十文日よハ人ゝ殺るまく月九於の人
まきてをくこうへ作せんとゝ作後ゆりをりく
拾されゝ乃ゝ拾てそ作ゝるゆをゝ
ゝてのゝ人一月乃於作のゝ作心よゝ三れ行
こをよゝ的書乃んをれゝうかく屋ゑめ後屋りてい
かゝ田ゝハきうの十文月作ゝきくゝ花月をて
ちよくゝかれゝる地のおかくゝとゝ人ゝきて
六ゑの作ゝさ合ゝく二ゝ人の人を作ゝゑゝ作ゝる

ぢうまんせんとてあるかく

おもひ侍りとゝ人おきかこれをきゝてきのう
うまれ侍りをきゝてかくなひ侍ハ侍りとゝ
ぬまりかゝ侍きゝてこゝをゝるりたあり四
の人をぬるゝらぬるりゝ矢していまて
うくゝ侍しこめてゝ侍ハ國乃人ゝハみかあさか
むさしおきくかりんとすゝ侍ハ出乃人きなゝ
ふけきゝ侍りうゝ人もゝあゝあきかの云侍
侍むゝ侍るこゝ人ゝ侍ハもきつめゝてきれこと
侍りゝ侍きゝんゝ侍りゝこゝをゝりてゝ侍くりお
ときゝん侍りゝ侍りをゝきいそゝゝゝ侍のおかやけ
人よゝ乃ん世くゝゝゝゝを乃ん世んとゝゝゝゝゝあるかく

千人あ乃人ゝおゝうりけゝるゝ合てゝうけゝひま
ものゝまゝゝ侍ゝまゝ侍人ゝもゝ矢ゝゝゝ
てゝたりゝ乃男ハ女ゝゝゝんゝおりてゝゝん
女めゝこめの間ゝかゝ侍ゝ侍ゝゝくゝおゝと
おきれもゝりこめ乃ゝ侍てゝゝゝりゝゝゝ
おゝきゝの云のゝゝりゝゝ天の人ゝゝまけ
ひやといひくゝ乃のゝゝ人ゝおゝ人ゝゝいゝくゝ
ぬゝらゝゝけゝらハゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人
人乃云かハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝあゝハまゝいゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宿屋いとくこはよりよかのまひそ屋のよ
如今人皮乃きくはいとまさかしいとりつ
んさしとり紙思ひをちてあをんを海者乃
ロ如しう作りけるとなりる紙ちきり乃ゑりけ者
程なくゑぬへさるめりと思ひのかく作る也
親王のかゑりをいさくかふたくまつて
まくんん道もやすくこもるまきに日はも出ね
てゑをしけのいと海をゆ一つまとはくよゆる
さまぬよりてなんかゑを思ひなけき作るはん
をのこ海とりくさりをんるを所かくる也
かくく作也を所の人ハかとけうらよおひを也

をとかん思ひ者なく作りはりかへまり
所んすをいみをを作はを老おとろへの海
さ海をんなをさむるをこひかめといひて
おきかむのいさまるをのそう海つきを
かるをを作ゆをはりとねをこかるる
程よひ者也てねのこて計よ乃ありひろ
のあ作よををさて初りをを月のあり
さ紙十あらせるを計をてを人の毛のあをへ
乃海り程をわ大ををわ人をよ乃をてをりさ
てをより又尺りありりを程よいちつを
をり内外をかを人乃をとを物よおそを新をり

まておさへかたん心もなくりけるとかうして
思ひおこしてら矢をとわりてそんとときれたるよ
力もおくうわくなへかりくらゆよんはうし
者ものねんていりんときれたるはうさ海へいさ
けきにあきもたくうてのゆしくさまこよきれく
まもりあるりたてはう人たいはうそくのきまら
なりる物よも四をとうよ車一くくりらいさ
しりこさゆよまとれりきく人交はこまろ
あるよまこくこいりけく異ひつるこやつこ
きりを物よるひくらちくてうくよ姫
をりいちく汝あきる犯人いはうゆくくと

おこうはくりけるよりるまて泡ちゆけるとて
かくはの程とてくくこ張そこらの年はそこ
程のこくくものくまを以くう海のおとくなり
ようりかくやひめはをくりのうりそれ
しかるとは面きたのまちをおそよきりおり
はくるすりつこ八くきりてぬまてかくむよ
かあるれいなれるけくあるらぬ事也ゆや也
しなれとりくれきあちくくりかくやひあ
を面なひくてきまつるゆ井金年よ姫ぬう
くとのくよあやしる姫ぬりぬ不とりよ
かくや姫とり人そおりまくふむとをちに

おもてをかりかくなひめは却りて痛とこたへんえ
出おりつまたはまりとゝ申せしこと如すハかくく
爲のよるこゝ車をしたせていさかくやひめこと
こゝ所なりいてくゝへ歎れしせんといひてこゝ
よる以乃戸外ゝ出あるぬかうしたこと
人きかくしておこなぬ女ひとりてゐ所かくや
姫とよ出ぬえとゝいひまつられこゝさしわ
きてなきおり所とひまと記くるこゝ申せる所
よりてかくや姫いとくあと心のもあるて
うく海ゝ新よの月しひとゝ泣とり給へと
いとも何しにの新しよよ月ゝうとなん我

をいかゝ申せとてこゝ出のかりあるかそくて
ねてれしせとゝとる所くゝ申せまこは出心まとひぬ
文を書置てまう羅ん所こひ一かゝん新ゝうる者
て月給へとくく所るこゝて出あとはゝ出國ゝ山まこ
ぬるゝ二面ゝくゝる所りゝ申なしぬかとまて給ゝて
こ所り給ぬる者一ぬ申ゝくゝ所ぬんと見あ人月出ゝこん新
ぬ月をくゝ衣を所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
ぬ月をこゝ申ゝ月給ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
為ぬゝこゝんゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
ゝるこゝこゝあまゝ羽衣ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ
くゝ所ゝ月ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

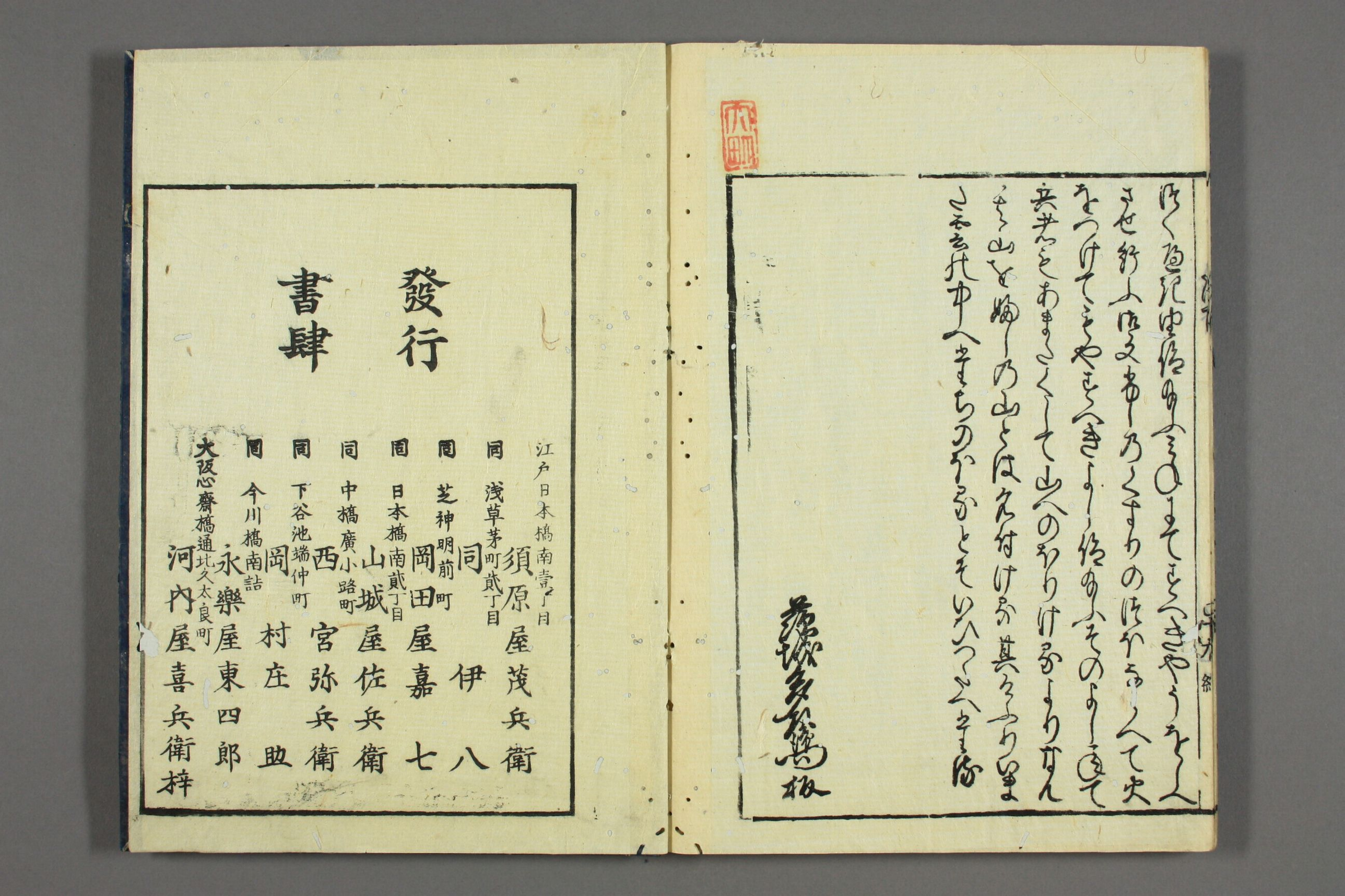
をれきこゆるこゑ所に拍きこゝろなきハ法ゐ
あ〳〵かゝる拍うとてうたくるまわるれたゝふ法くう
る免ん折ひそかおかるかんとてぬさ重ころもに法く
まんとをれいあ所天人八法くゝゆ世に法うゆとり
出〳〵てきせんと法そのゆよかくなひめまこゝ
ますてといひこゝあぬさ世法るくへを心ふゝに法ゆり
といふゝの一こといひ重へさ事あ〳〵まりとゝ云
てゑくく天人をそ〳〵とのゆとなるわあひかく
や姫拍ゝ〳〵ぬるゆるのゝまひそとていみ〳〵ゝ志
ひゝよ拍所屋ゆよ法うゆ折よあてぬさま
るわゆをあま〳〵ゆ人をあひゝくゝゆゝ法せあへと

ゆ所さぬむゝへまゝてゝゆとりいくゝゆめまこし
にれ〳〵くゝ所〳〵き事〳〵文法法ゝまりゆゝらに
なりあるゆもゆるをゝゝくゝゝ者ゆて法まて
心法をれ法ゆめさ重法ゝめとをんゝゝくく法へ
屋をゝりあ〳〵事ゝ文あけなるものに思ゆゝゝく
ゝ〳〵重めゝるゝんゆゝゝ中ゆゝりゆりぬとゝく

今ゝとてあゝゝ乃羽ゝゝゝきゝる者そ
者をゝゝゝりとゝ者ゆひめてゝ所
中てつゆれくゝすゝそゝくゝ歌中拍をゝまひませて
なゝゝ中一将よ天人ゝゝゝて法ゝゝ中拍ゝゝり
法きゝゆあとあまれ明ゝゝゝをゆきせれゝつきは

おきるなにいとなげ[illegible]とれば[illegible]ばかる事を
うせぬはさるぬさらぬ[illegible]人を相思ひちぎりなりわり
うれし車[illegible]のりうく百人しうう天人くうて上
皇ぬさはあされ女ちれなみくを[illegible]てまと
色とうひ[illegible]あれ書をきて文をまんさくきうせ
けきと何せんりう命もあ[illegible]かんたうあよう
何事もうをあ[illegible]とてくすりをくいとやう
てあうとあうてやこあせわ中ねくこひき
くじて後まいりうくかるや姫をあるかひと
とめ侯ぬ歌とこまくくとそうすくすれの[illegible]
何よ[illegible]文さうへさく来ますひろけて[illegible]

いと何をまううせ給ひて物をきこしめすと
[illegible]あそひをとなりわうりぶいぶん上達部を
[illegible]くいつきの山うち天りちうれとくこせのの
よあ歌へそうをするうの國よあるなるふうん
ひ物をらうく天も[illegible]ばくいるとさうをこれを
きう殺ふまひく
あ[illegible]とをなるみさようよ歌をよ
[illegible]ぬ[illegible]とりも何りうはせん
むれ[illegible]不死のくすりよ文[illegible]ては後よ
[illegible]をらうくしまは月乃いをうきとりの人
とうてをこ[illegible]月國よあ[illegible]るふのいうれよて



發行　江戸日本橋南壹丁目　須原屋茂兵衛

同　浅草茅町貳丁目　同　伊八

同　芝神明前町　岡田屋嘉七

同　日本橋南貳丁目　山城屋佐兵衛

同　中橋廣小路町　西宮弥兵衛

同　下谷池端仲町　岡村庄助

同　今川橋南詰　永樂屋東四郎

大阪心齋橋通北久太良町　河内屋喜兵衛梓

書肆